

女性医師部会座談会

と き 平成 29 年 1 月 23 日 (月) 19:00 ~ 20:20
ところ 周南市内
参加者 徳山・下松・光市各医師会所属の女性医師 5 名

[司会：山口県医師会常任理事 今村 孝子]

開会

今村常任理事 本日は、大変お忙しい中、「女性医師部会座談会」にご出席いただきましてありがとうございます。

この座談会は 26 年度から医師会報の新コーナーとして年 1 回開催させていただいており、第 1 回目を下関市で、第 2 回目を山口市で開催させていただき、今回が第 3 回目となります。

本日は「医師を続けてきてよかったこと、困っていること」並びに「後輩の女性医師へのアドバイス」についてお話いただきますが、お名前やお写真は掲載せず、発言者が特定できないような形にしますので、本音をお聞かせいただきますようよろしくお願いいたします。

医師を続けてきてよかったこと、困っていること

★ 人の役に立っていることが実感できる仕事だと思います。自分の立場から言えば、資格を取って自分の生活の質も上げたかったし、自立したいということもありました。そういうことから、医師というよりは医療系が良いかなと思っていました。他の仕事も考えたのですが、医師の方が途中でペースを落としたり、復帰してもやれるので、当たっていたかなと思います。勤務、開業、行政等、いろいろな道がある点においても、わりと良い仕事かなと思ってます。

★ 医師の資格を持つことで、おそらく自分が辞めたいと思う時までこの仕事を続けられると思いますし、そしてそれは凄く有難いことだと考え

ています。息子が一人いるのですが、仕事を休んで育児を始めた際は育児ノイローゼになりそうでした。仕事を離れるのがこんなに辛いものかというのを感じましたし、仕事に戻った瞬間に心がリセットされて、患者さんと話していることが自分にとっては大変プラスになっていました。自分がこんなにも仕事が好きだなんて全然思っていなかったんですが、実際には家庭と仕事の両立で自分を上手く保っていたということに最近、育児をしながら気づきました。医師以外の仕事でもそのように感じる方はおられるとは思いますが、やりがいに関しては本当に強く感じており、良い仕事に就けたと思っています。

★ 家族の健康の悩みに対して、自分で調べて対策を教えることにやりがいを感じていたため、健康のサポートをしたいと思い、医師を志しました。今も相談にのる程度ですが、家族が少し安心してくれると嬉しく思います。また、救急対応で投薬や処置によって一命を取り留めた時、目の前で劇的に助けられるという点で凄くやりがいがある仕事だと思っています。困っている点としては、今後の進路について専門医制度が変わっていくことや、将来、キャリアと家庭をどのように両立させていくかという点で不安があります。

★ 私が医師を志した理由があまりしっかりしていなくて、近くに同じ仕事をしてた人がいたからというのと、しかも、その人が楽しそうに仕事をしてたからというのが、きっと大きいと思います。良かったと思う点は、小児科の場合は子ど

もがどんどん成長するので、例えばその子が結婚して、子どもを産んで、その子どもを連れて遊びに来てくれたりした時に、小児科医で良かったなと思います。困っていることは、将来どうなるのだろうかということで、今の仕事を続けるのか、結婚するのか、いずれにしても仕事を続けなかったらお金の面はどうなるのか、結婚相手によるとは思いますが心配です。時間がないというのは今は言い訳になる状況になっていますが、結婚する相手を見つける時期は仕事でそれどころではないくらい忙しかったかなと思います。

★ 以前から医師になりたいと思っておられたとのことで、一本筋が通ってますね。

★ 大学 5～6 年で進路を考えた時に救急と ICU のどちらに進むか、かなり悩みました。ですが、一度決めてしまってから迷うことはありませんでした。

★ 入る前に物事をきちんと考えておられて素晴らしいです。私は勢いだけだった気がします。どこかで考えないといけないわけで、入った後に行き詰ってから考えました。

★ 将来行きたい科を決めてからも別の科を廻っておられると思うのですが、「やはり他の科がよかったかも？」と悩んだりしたことはなかったんですか。

★ 各科の魅力をそれぞれ感じるので憧れることはあります。

★ もし自分が今、受験するなら、どうするだろうとか考えたりしませんか。例えば医学部以外を受験するとか。テレビの影響とかもありますか。

★ 最近はテレビにおいて、医師の話が忠実に、臨床にとても近いような形で描かれていますよね。最近あったドラマ「コウノドリ」でも、若年妊娠や母体危機の赤ちゃんをどうやって助けるのか、産婦人科のかなりリアルな面を描いていま

した。志す人がああいうのを見た時に、怖いと思うのか、それとも凄と思うのか、その人のモチベーションによると思うんですが、私は医師になった人間なので、「凄い」「やっぱりカッコイイ」と思いながら観ていました。私の母は看護師で仕事大好き人間なんですが、そんな母を見て医療系に進もうと考えて、母に看護師になりたいと言ったら「止めときなさい」と言われました。看護師はいろいろな資格や経験を持っていますが、最後に決断するのは医師であり、患者さんのための発言であっても医師には及ばないと。もちろん看護師としての仕事はとても大事なんですが、患者さんのためにやりたいことができない時があるから、どうせなら極めた方が良いということで医師を目指そうと決めました。実際医師になると、常に新しい情報がたくさん入ってきて、特に科が決まってからは好きなことがたくさん勉強できるということが本当に楽しくて。産婦人科は内科から外科までできるんですが、好きなことをやりつつ生涯勉強というのは、辛いように聞こえるかもしれませんが、それだけ情報がいろいろ入ってくるので凄く面白いです。

★ 看護師長さんは多数の女性の集団をまとめなければならいわけで、リーダーシップが凄く必要と思う。非常にやりがいがあるでしょうね。プライベートとの両立は大変だったのではないのでしょうか。

★ 父は料理人で、母の夜勤と重なり家を空けることが多かったので、祖父母のサポートがあったから仕事を続けられたと思います。私自身も仕事をしつつ家庭を持っていますが、意外にやりくりできていると思っています。その理由としては、結婚相手が一般のサラリーマンということもあると思うんです。主人が私の仕事の忙しさをちゃんと理解したうえで結婚してくれて、夕食を作るのは帰宅の早い主人、後片付けは私というように家事は分担しており、今のところは不自由なことも感じていません。産婦人科ということもあって産休や育休を取ったり、子供のことで早く帰るということについてもサポートしてもらえる点におい

ては産婦人科で良かったなと思っています。夜中のお産が多いというのは事実なんです、それ以上に得るものが大変多いので。

★ 今も夜中の呼び出しに出ておられるんですか。

★ 今は妊娠中なので出ていません。ただ、産後仕事に早く復帰しましたから、たまに子供が可哀そうなんじゃないと言われますが。

★ どうして可哀そうなんですか。

★ やはり常時子供の側についてあげられないことが理由だと思います。私が仕事に復帰したのは出産後 6 か月の時で、育児ノイローゼになりそうなので早く戻してほしいとお願いしました。6 か月の小さな子供を託児所に預けて仕事するのはどうなんだってことを親族から言われたりしたんですが、実際には自分が医師として仕事をしている時と育児している時の心のバランスが非常に良かったので、早く復帰して良かったです。

★ 仕事をしていることでバランスよく廻っていたのですね。一本足で立つよりも二本足で立つ方が安定するように。子育てはお母さん一人の仕事ではなくて、いろいろな人が関わってやっていく方が良いと思う。周りを上手く巻き込んで乗せるテクニックが必要です。自分が楽しそうに幸せそうということが一番です。先生は凄く幸せそうでお顔の色も良いですね。

★ 正直、今の所、困っているということはあまりありません。

★ 子どもが急に熱を出した時とかは、どうしているんですか。

★ 病院内に病児保育があるので非常に恵まれた環境にあると思います。子供は病児保育で診てもらいつつ、仕事は定時で上がらせてもらっています。

★ 院内病児保育も最近増えましたね。

★ 私は今年の 10 月に開業して今はバタバタしています。他の仕事についてはあまり考えられなくて、自分の性格上、いわゆる事務職は自分には合わないなと思っていました。今までいた企業の診療所は通常の病院と異なることが多くて、病院内だと共通言語で話してわかることも、なかなか通じないことも多いことを経験しました。それこそ行政的なこととか政治的、経営的なことがチョロチョロ絡んできて、普通の病院とは少し違った経験をさせてもらえたと思っています。そういったことを含めて医療者というのは特に内科、糖尿病とかは予防からプライマリまで繋がったものとして体制構築しようと四苦八苦しました。ある意味、折衝は上手くないので、そういう面で苦労したということはあるんですが、医師として苦労したということとは違うと思っています。人と話をすることが基本的には嫌いではないので、患者さんと話をすることで自分が救われているということにはよくあって、診療を続けていくこと自体が私にとっては非常に有難かったと思っています。35 歳になる直前で一人目を、38 歳の時に二人目を出産したんですが、実は一人目の時は出産前日まで働いていました。産前休暇として 6 週間前から申請は出したんですが、落ち着かないので結局、裏でゴソゴソ仕事をして、出産して 8 週間で復職しました。夏だったこともあり、非常にクラクラしていて、しかも子供がなかなか寝てくれない子だったので大変でした。徳地に住んでいる母が来てくれたので、わりと早くから保育園に入れましたが、嘔吐下痢になるのは週末になってから、インフルエンザになるのも金曜日の夜からというようなことで、あまり休まずにすみしました。医師で困ったことはあまりないんですが、強いて言えば学生時代から付き合ってたそのまま結婚している同級生もいますが、医師はどちらかと言うと婚期が遅いということですかね。

★ 学生結婚は多いですね。

★ 卒業するまでに出産して、頑張って卒業する

というパワフルな人も居ました。

★ なんとかかなりますよね。仕事でもそうですが、そうなった時に目の前にあることに対して、どうにか片をつけていく習性がありますね。

★ 私の場合は、途中からは結婚しなくてもよいと思っていたら、ある日突然、結婚することになっていました。

★ ドラマチックですね。

★ 私は大学卒業後、九州の病院で 6 年ほど勤務していました。とにかくお酒が大好きで、よく飲み歩いていましたが、飲み屋で出会うお客さんと喋ることで、私って医学しかやってこなかったんだという自分の無知を思い知らされながら、社会的なことを学んだりしていました。そんな中で、たまたま政治の話をしたのが今の主人でした。お互い一人ずつで飲んでいて、向こうは私が医師であることを飲み屋のママから聞いていたみたいで、「医師なのに無知だな」と言いながら政治の話をしてくれました。初対面なのに凄く話が盛り上がったのが私の中では非常に大きくて、「またこの店に来るんだったら連絡を取り合って喋ろうよ」と言ったことがきっかけでした。私は当時 29 才だったんですが、そろそろ結婚を考えなくてはと思っており、お付き合いをする直前に「結婚する相手としかお付き合いは考えません」ということをあらかじめ言って、お付き合いから結婚という流れでした。

★ 言うべきことは言っておいた方が良いですね。

★ 「医師の仕事を辞める気は全くないし、楽しいから絶対続ける。結婚しないんだったら、そんな無駄な時間は要らない。」というようなことを、はっきり言いました。

★ 本当に良い方だったのですね。

★ 有難かったです。仕事は辞めないし、こういう性格だし、ということも全部お話しして、相手も「医師は良い仕事だから続けたらよいと思う。自分がサポートに回れたら回るから」って言うてくれて、本当に有難い出会いだったと思っています。九州では女性医師と聞いただけでさーっと引いてしまう男性もいたので、「看護師で〜す」って言って合コンに参加したりしていたんですが、主人は「良い仕事だね」と言ってくれました。医師という仕事柄、出会いということについてはなかなか難しいかなとは思いますが。友人の女性医師でお見合い結婚した人もいますし。

★ 自分自身から医師は良い仕事と思っている感じが出ないと相手に伝わりませんよね。先生の場合、凄く仕事が好きで、ハッピーな感じが出ていたのですね。

★ 私は 34 歳で結婚したんですが、それまで両親からも周りからもいろいろあったもののご縁がありませんでした。医師同士また同じ科同士で結婚すると、結局は女性の方が無理をするということも見てきて、結局、医師同士は止めた方がよいと思いました。その後もいろいろあって、しばらくは「もう結婚なんてしなくてもいい」と思っていました。

長年、企業の診療所で働いていたので、お節介なおじさんが多く、飲み誘われ一緒に行ったりしていました。今の主人は会社員で健診結果の説明などをきっかけに、食事をしにいくようになったのが付き合うきっかけでした。話も、実はトンチンカンでズレている主人で生活スタイル等には腹の立つことが多いんですが、ここだけは外してほしくないという思いや考え方、理解してほしいことに関しては凄く合います。そういうことが大事かなとも思っています。結婚は年齢ではなく、したいと思った時が適齢期だと思っています。

★ お酒は必要なんですね。

★ “飲みニケーション”は大事かもしれません。お酒を飲まなくても、そういう、ざっくばら

んな環境に行くことが大事かもしれません。

★ 先生はスポーツ好きですね。

★ 週末になるとラグビーとかを観たり、グラウンドに出かけてサポートしています。

★ レノファ山口の応援に誘われたりしませんか。

★ 友達が凄く熱心になっています。私は元々、外に出るのが好きでしたし、男所帯に居ることが多かったの。昔、徳山中央病院に居た時に、某先生に「今まで来た研修医の中で一番男らしい」と言われました。

★ それは褒め言葉でしょう。

★ 土日とかは試合も観に行かれるんですか。

★ 子どもは女の子 2 人なんですけど、ラグビーをやっているのグラウンドについて行ったり、他の試合のサポートに行っています。クリニックを土日は休みにしている関係で平日は遅い時間まで診療しています。

★ 患者さんにとっては有難いですよね。

★ 医療界の中だけで物事を視ずに、視野を広く持ちましょうってことですね。

★ 職業が違ふと考え方が全然違いますよね。時々、知らないことが多い自分が恥ずかしくなることがあります。

★ 私は学生時代、社会のことについて何も勉強していなかったんだなって思います。医学のことならイキイキと喋れるのに政治、株などの話は全く分かりません。だから別の職業である主人と話をするときは新しいことを知ることができて面白いと感じました。

★ 医療者を知らない人たちと話す機会が多かったので、そういうことが大きかったと思いますし、異業種の方との交流も必要だと感じました。

★ 理解してもらえる相手なら他業種でも良いですが、理解してもらえないなら同業者の方が良いでしょうね。医師同士で結婚した人でも上手くいっている人もそうでない人もいますしね。

★ あまりに近いと、見えすぎてしまって腹が立つこともあると思います。同業者（医師）でも科が違ふとファジーな部分があり、「仕方ないか」と思うことがお互いにできれば、上手くいくのではないかと思います。

後輩の女性医師へのアドバイス

★ いろいろあるとは思いますが、とにかく幸せそうに楽しそうにやっていくことが大事だと思います。そうしているとツキがよくなる。それと途中でペースダウンすることがあったとしても、続けていればなんとかなりました。

★ キャリアを積むことと結婚、出産の両立について不安があるというお話がありましたが、私自身は結婚後に産婦人科専門医の資格を取ることができました。実はここから先にもまた目標が一つありまして、女の子から老年期女性まで幅広く診ることのできる女性医学の認定を取ろうかなと思っています。育児中でもいかに自分がフットワーク軽く勉強会に出るかということがとても大事だと思っていて、産婦人科の勉強会や学会には、なるべく参加しています。産婦人科クリニック勤務なので、大学病院のように特殊な症例を経験できない代わりに、一般的な更年期症状で悩んでいる方とか、月経不順で悩んでいる女の子とか、幅広い疾患が診られるというメリットがあるので、診療の中で女性医学のキャリアはそれなりに積めるのかなと思っています。しばらくは育児をしながら仕事をしていくと思うんですが、長い時間がかかっても目標に向かって走って行けば、ある程度達成できるのではないかと思います。

★ 自分はキャリアがそんなにあるわけではないので、ベースの医師／内科医ということがあったとしても、自分がその時その時で興味を持ったものに対して喰いついているというか、かじっているの、専門性に特化しているわけではなく、あまり若い人の参考にはならないかと思います。ただ、自分が将来、どんな医療者になりたいかという芯があれば、例えば結婚、出産、育児で少しブランクができて、どうしてもできる部分だと思し、スピードは人それぞれなので、先程先生が言われたように、育児をしながらできることもあるし、妊娠、出産の時だってできることはあるので、それを少しずつ続けていったらよいと思います。私はそういう医療者を目指そうと思っていたので。

★ 今の目標を作らないといけないと思っているんですが、なかなかそれを見つけきれなくて、ちょっと目標を失ってしまっている状況です。例えば専門医の資格を取るとか、どのような医師になりたいか等を考えずに生きてきている気がしています。小児科の中での専門医は結構細分化されているので、何を専門にしようかなと考えているところです。そういう自分が今思うことは、あまりに遠い将来像を目標にしたり、あるいは偉大な人を目標にするなど、具体性のない目標にしたりせず、ちょっとずつ細かくゴールを決めていた方がよかったということです。医師としてはまだまだ若いんですが、今の時点で凄くそのように思うので、皆さんにも細かくゴールを決めて、一つずつ細かく達成していったらいいと思います。

★ 学生時代は到達目標を達成できない自分に不満や不安が募り、空回りすることもありましたが、働き始めても繰り返し勉強する機会があり、意外と今でもカバーできると気づきました。昔の自分にアドバイスするなら、目の前の目標に対して自分の力で没頭していけば、足りないところは後で補うこともできると伝えたいです。

★ 人との出会いは本当に大きくて、私は以前勤めていた病院の産婦人科で、「この先生のように

なりたい」と思える人に出会えたことが本当に大きかったです。今は 70 歳手前ぐらいで、大きな病院は卒業されて個人のクリニックで副院長として働かれている女性医師なんですが、その地域の産婦人科を支える本当に有名な先生なんです。この先生と一緒に仕事をする中で、こういう人生の歩み方があるんだと感動しました。今でも年に一度程会いに行ったり、手紙のやり取りをさせてもらっていますが、この先生との出会いがなかったら、自分自身に産婦人科は辛いというイメージがついてしまっていたと思います。患者さんに「この先生しかいない。この先生だけを頼りにしている」と言われるぐらい人格的にも本当に素晴らしい先生で、目標の先生です。

★ 私は医師になって 20 数年経っていますが、未だに反省しきりで勉強が必要と思っているんですが、医師になりたての頃に先輩の医師から「最初の数年はとにかく苦労しろ」と言われました。若い時こそ苦労は買ってでもして、その頃にいろいろな経験をしておくと、必ず後になって役に立つし、出産や育児の際に、ちょっと足踏みしたようなつもりになっても、その苦労が必ず生きてくるし、その次に繋がっていくと思います。だから若いうちに、今の研修医さんたちって凄く大変だと思うんですが、それでも苦労は買っていただいたほうが後に繋がってくると思います。

閉会

今村常任理事 お一人お一人のエピソードがそれぞれ物語になるような貴重なお話をたくさんお聞かせいただきましてありがとうございました。

どこにでも上手に適應できるしなやかさをお持ちの先生方のメッセージは、きっと若い女性医師の宝物になると思います。

今後ますますのご活躍を期待して、座談会を終了させていただきます。